

1 月別気象概況（平成 27 年 1 月～12 月）

福岡管区気象台

（1）1 月の気象概況

上旬：期間の中頃にかけて冬型気圧配置による寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨または雪多照

1 日に大牟田などで「日最大風速」と「日最大瞬間風速」の 1 月の極値更新

期間の中頃にかけて、冬型気圧配置による寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨または雪となり、平野でも雪が積もった日があった。特に 1 日は雪を伴って強い風が吹き、荒れた天気となった。期間の終わりは大陸の高気圧に覆われて晴れた。1 日は大牟田と久留米で「日最大風速」の、また大牟田、行橋、前原、久留米、宗像、黒木、添田で「日最大瞬間風速」の 1 月の極値を更新した。

気温は、期間の中頃に平年を上回ったが、はじめと終わりに平年を下回り、旬では平年を下回る所が多かった。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、 $3.6\sim 7.0^{\circ}\text{C}$ （平年差 $-0.9\sim +0.3^{\circ}\text{C}$ ）で概ね平年並、旬降水量は $2.5\sim 31.5\text{mm}$ （平年比 12～103%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比 117～148%で、県内各地で多くなった。

中旬：大陸の高気圧に覆われ晴れる日が多かったが、短い周期で寒気の影響を受けて曇りや雨となる日があった 高温多雨多照

15 日に宗像などで「日最大 1 時間降水量」の 1 月の極値更新

期間を通して大陸の高気圧に覆われて晴れる日が多かったが、低気圧や気圧の谷が短い周期で通過し、一時的に寒気の影響で曇りや雨となる日があった。特に 14 日から 15 日にかけて、低気圧が発達しながら九州付近を通過し、各地で強い雨が降り、最大 1 時間降水量は宗像で 12.5mm 、行橋と博多で 10.5mm を記録し、「日最大 1 時間降水量」の 1 月の極値を更新した。

気温は、平年を下回る日もあったが平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量と日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、 $5.0\sim 8.1^{\circ}\text{C}$ （平年差 $+0.6\sim +1.9^{\circ}\text{C}$ ）で平年より高く、旬降水量は $18.0\sim 66.5\text{mm}$ （平年比 78～202%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年比 126～150%で、県内各地で多かった。

下旬：気圧の谷や低気圧・前線の影響を受けて雲が広がりやすく曇りや雨の日が多かった 高温多雨 寡照

博多で「月平均気温の高い方から」、耳納山で「月降水量の多い方から」の 1 月の極値更新

期間を通して気圧の谷や低気圧・前線の影響を受けて雲が広がりやすく、曇りや雨の日が多く、暖かい空気の流れ込みで気温は高く、日照時間は少なくなった。博多では月平均気温 7.3℃を記録し「月平均気温の高い方から」の 1 月の極値を更新した。また、耳納山では月降水量 91.0mm を記録し「月降水量の多い方から」の 1 月の極値を更新した。

気温は、終わりに平年を下回る日もあったが平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を大きく上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、5.8～8.4℃（平年差 +1.7～+2.7℃）で平年よりかなり高く、旬降水量は 31.5～67.0mm（平年比 137～348%）で県内各地で平年より多く、旬日照時間は平年比 52～81%で県内各地で少なかった。

(2) 2月の気象概況

上旬：天気は数日の周期で変化 5日は強い寒気の影響で雷を伴ってみぞれやあられが降った低温

8日に大牟田で「日最大風速」の2月の極値更新

高気圧と気圧の谷や低気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化した。5日は低気圧の通過後に強い寒気が流れ込み、短時間に雷を伴ってみぞれやあられが降り、平地でも雪の積もった所があった。また同日、大牟田では北西の風 10.0m/s の「日最大風速」を観測し、2月の極値を更新した。

気温は、期間の前半に平年を上回る日もあったが、平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量と日照時間は概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、2.5～5.7℃（平年差-1.8～-0.7℃）で平年より低く、旬降水量は 0.0～31.5mm（平年比 0～110%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比 77～100% で少ない所が多かった。

中旬：期間を通して天気は数日の周期で変化した

期間をとおして天気は数日の周期で変化した前半は晴れた日が多く、後半は曇りや雨の日が多かった。19日は冬型の気圧配置による寒気の影響で山沿いでは雪の積もった所があった。

気温は、期間のはじめと終わりに平年を下回る日もあったが、旬では平年を上回る所が多かった。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は、5.4～8.1℃（平年差-0.1～+1.1℃）で概ね平年並、旬降水量は 2.5～28.5mm（平年比 8～78%）で概ね平年より少なく、旬日照時間は平年比 98～113% で概ね平年並だった。

下旬：天気は短い周期で変化した前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった 寡照

21日は春一番が吹いた 22日は黄砂を観測した

期間を通じて高気圧と低気圧、前線が交互に通過し、天気は短い周期で変化した。前線や低気圧の影響を受ける日が多く、雨の降る日が多かった。21日から 22日にかけては南寄りの風が強まり、九州北部地方で「春一番」が吹いた。また、22日から 24日にかけて福岡では今年初めての「黄砂」を観測した。

気温は、期間の中頃までは平年を上回る日が続き、期末に平年を下回ったが、旬では概ね平年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、6.6～9.3℃（平年差-0.9～+1.6℃）で概ね平年並、旬降水量は 12.5～41.0mm（平年比 47～123%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比 47～77% で県内各地で平年より少なかった。

(3) 3月の気象概況

上旬：天気は短い周期で変化 10日は強い寒気の影響で荒れた天気

大牟田で「日最大風速」の3月の極値更新

低気圧や気圧の谷と高気圧が交互にとおり天気は短い周期で変化した。期間のはじめと終わりは、九州南岸を発達しながら北東に進んだ低気圧の影響で県内でまとまった雨が降った。また、10日は強い寒気の流れ込みで雪を伴って強い風が吹く荒れた天気となり、大牟田では北西の風 10.5m/s を観測し「日最大風速」の3月の極値を更新した。

気温は、期間の後半に平年を上回る日があったが、その他は下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、5.2～7.7℃（平年差-1.7～-0.6℃）で概ね平年より低く、旬降水量は 45.5～86.5mm（平年比 110～183%）で概ね平年より多く、旬日照時間は平年比 79～111%で平年並の所が多かった。

中旬：天気は短い周期で変化

17日に太宰府で「日最高気温」、18日に久留米で「日降水量」、18日に大牟田で「日最低気温の高い方から」のそれぞれの3月の極値更新

低気圧や気圧の谷と高気圧が交互にとおり天気は短い周期で変化したが、期間の中頃にかけては日中を中心に高気圧に覆われて晴れた日が多かった。17日は太宰府で日最高気温 25.1℃を観測して3月の極値を更新した。18日はチェジュ島付近から対馬海峡に進んだ低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んで、県の南部を中心にまとまった雨が降り、久留米で日降水量 67.0mm を観測して「日降水量」の、また大牟田では最低気温 15.4℃を観測して「日最低気温の高い方から」の3月の極値を更新した。

気温は、期間のはじめは平年を下回ったが、中頃からは上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を上回る所が多く、日照時間は平年を上回る所と下回る所があった。

県内各地の旬平均気温は、9.4～11.9℃（平年差 +0.9～+1.9℃）で概ね高く、旬降水量は 32.0～105.0mm（平年比 81～227%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比 288～123%で概ね平年並だった

下旬：高気圧に覆われて晴れた日が多かった 少雨 多照

22日に「黄砂に関する福岡県気象情報」を発表 22日に福岡でサクラの開花、29日に満開を観測

期間を通して勢力の強い高気圧に覆われて晴れの日が多かった。期末は南からの湿った空気の流れ込みで雨が降った。22日は黄砂の影響で視程が 5km 以下となり「黄砂に関する福岡県気象情報」を発表した。また、22日は福岡でソメイヨシノの開花（平年より 1日早く、前年より 3日遅い）、29日は満開（平年より 3日早く、前年より 2日遅い）を観

測した。

気温は、期間の中頃を除いて平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、10.6～13.3℃（平年差 +0.5～+1.7℃）で概ね平年より高く、旬降水量は 0.0～3.5mm（平年比 0～7%）で県内各地で平年よりかなり少なく、旬日照時間は平年比 161～193%で県内各地で平年よりかなり多かった。

(4) 4月の気象概況

上旬：期間をとおして雨の日が多く、3日は雷を伴った激しい雨 高温 多雨 寡照

3日に朝倉、英彦山で「日降水量」、朝倉で「日最大1時間降水量」、5日に宗像、八幡で「日最大1時間降水量」の4月の極値更新

期間をとおして前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多く、特に3日は前線の活動が活発で雷を伴って激しい雨が降り、朝倉で102.5mm、英彦山で144.0mmの「日降水量」を観測、また朝倉では34.0mmの「日最大1時間降水量」を観測していずれも4月の極値を更新した。5日は九州北岸に停滞した前線の影響で、宗像で24.5mm、八幡で21.0mmの「日最大1時間降水量」を観測し4月の極値を更新した。

気温は、期間の前半は平年を大きく上回り、後半は下回ったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、13.6～15.9℃（平年差+1.3～+3.1℃）で平年より高く、旬降水量は83.5～254.5mm（平年比186～443%）で県内各地で平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比36～52%で県内各地で平年よりかなり少なかった。

中旬：天気は数日の周期で変化した 13日は雷を伴った大雨、15日は上空の強い寒気の影響で雷を伴い降ひょう 寡照

低気圧や前線と高気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変化した。13日は九州南岸を通過した低気圧の影響で、雷を伴い、県内で10.5mmから40.5mmの雨を観測した。14日から15日にかけては上空に強い寒気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、雷を伴った雨が降り、福岡では15日未明にひょうを観測した。

気温は、前半は平年を下回る日が多かったが、後半は上回る日が多く、旬では平年を上回る所が多かった。降水量は概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、13.5～15.4℃（平年差-0.3～+1.0℃）で概ね平年並、旬降水量は37.5～102.0mm（平年比87～222%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比60～74%で県内各地で平年より少なかった。

下旬：中頃までは高気圧に覆われて概ね晴れた、期末は上空の寒気の影響で雷を伴った雨の日があった 高温 多照

太宰府と英彦山で「月降水量の多い方から」の4月の極値更新

期間の中頃にかけては高気圧に覆われて晴れた日が多かった。期末の29日から30日は上空に寒気を伴った低気圧の影響で雷を伴った雨が降った。また、4月の中頃にかけてまとまった雨が降り、月降水量が大宰府で281.0mm、英彦山で322.5mmを観測し、「月降水量の多い方から」の極値を更新した。

気温は、初め平年を下回る日があったが、上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、16.1～18.2℃（平年差 +0.6～+1.4℃）で高く、旬降水量は 3.0～51.5mm（平年比 6～134%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比 127～144%で県内各地で多かった。

(5) 5月の気象概況

上旬：高気圧と低気圧・前線が交互に通過し天気は周期的に変化 高温

高気圧と低気圧・前線が交互に通過して、天気は、前半は数日の周期で、後半は短い周期で変化した。

気温は、後半は平年を下回る日もあったが平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、17.6～20.0℃（平年差+0.3～+1.5℃）で高く、旬降水量は 19.5～39.5mm（平年比 27～61%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比 120～136%で概ね多かった。

中旬：前線や気圧の谷の影響で曇りや雨 高温 多雨

高気圧に覆われて晴れる日もあったが、期間を通して前線や気圧の谷の影響で、曇りや雨の日が多かった。特に 12 日と 18 日は、活発な前線や湿った気流の影響で日降水量 70mm を超す雨の降った所があった。また、台風第 6 号は 12 日に東シナ海から九州の南海上を東北東進し、18 時に四国沖で温帯低気圧に変わった。

気温は、平年を下回る日もあったが平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、19.0～20.5℃（平年差+0.9～+1.8℃）で高く、旬降水量は 66.5～197.5mm（平年比 124～247%）で県内各地で多く、旬日照時間は平年比 80～95%で概ね平年並だった。

下旬：期間を通して、高気圧に覆われて晴れた日が多かった 高温 少雨 多照

博多で「月平均気温の高い方から」の5月の極値更新

期間の終わりに前線を伴った低気圧の影響で雨の降った日があったが、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。26 日は県内で今期一番の暑さとなった所が多く、須恵町立須恵第二小学校では熱中症と見られる症状で 9 人が病院に搬送された。また、5 月は期間を通して気温が平年を上回る日が多く、博多では月平均気温 20.5℃を記録し、「月平均気温の高い方から」の 5 月の極値を更新した。

気温は、平年を下回る日もあったが平年を上回る日が多く、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、20.2～22.6℃（平年差+1.0～+2.0℃）で高く、旬降水量は 3.5～10.5mm（平年比 8～26%）で概ねかなり少なく、旬日照時間は平年比 115～134%で県内各地で多かった。

(6) 6月の気象概況

上旬：期間を通して曇りや雨 2日ごろに梅雨入り 多雨 寡照

5日に添田などで「日最高気温の低い方から」の6月の極値更新

期間の前半は、高気圧に覆われて晴れた日があったが、期間を通して曇りや雨の日が多かった。2日から3日にかけては、梅雨前線や湿った気流の影響で100mmを超える大雨の降った所があった。5日の日最高気温は、添田で17.5℃、朝倉で17.6℃、黒木で17.3℃、大牟田で18.7℃までしか上がらず、「日最高気温の低い方から」の6月の極値を更新した。2日ごろに九州北部地方（山口県を含む）は梅雨入り（平年より3日早く、前年と同じ）した。

旬の気温は、期間のはじめに平年を上回る日もあったが、平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、19.7～21.8℃（平年差-0.8～-0.1℃）で平年並か低く、旬降水量は92.0～240.5mm（平年比217～627%）で、県内各地で多く、旬日照時間は平年比53～84%で、県内各地で少なかった。

中旬：期間を通じて曇りや雨 寡照

12日に「黄砂に関する気象情報」発表

期間の初めに高気圧に覆われて晴れる日もあったが、期間を通じて梅雨前線・低気圧や気圧の谷の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。11日は九州北部まで北上した梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込んで県南部を中心にまとまった雨が降り、黒木では81.0mmの日降水量を観測した。12日から13日にかけては黄砂を観測し、12日に「黄砂に関する気象情報」を発表した。

気温は、期間の前半は平年を上回る日もあったが、後半は平年を下回る日が多く、旬では筑後地方中心に平年を下回った所が多かった。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を大きく下回った。

県内各地の旬平均気温は、21.4～23.1℃（平年差-1.1～+0.6℃）で平年並か低く、旬降水量は32.5～117.0mm（平年比47～114%）で県内各地で平年並、旬日照時間は平年比37～69%で概ねかなり少なかった。

下旬：期間を通じて曇りや雨

22日に「長雨と日照不足に関する九州北部地方（山口県を含む）気象情報」発表

高気圧に覆われて晴れる日もあったが、期間を通じて梅雨前線や低気圧、気圧の谷の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。九州北部地方では、6月はじめから曇りや雨の日が多く、降水量が多く、日照時間の少ない所が多かったことから、22日に「長雨と日照不

足に関する九州北部地方（山口県を含む）「気象情報」を発表した。

気温は、期間の中頃を除いて平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は平年を下回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は、21.6～23.6℃（平年差 -1.7～-0.4℃）で平年並の所が多く、旬降水量は 36.5～96.5mm（平年比 26～47%）で概ね少なく、旬日照時間は平年比 85～119%で概ね平年並だった。

(7) 7月の気象概況

上旬：梅雨前線の影響で期間の中頃まで曇りや雨 期末は晴れた 低温

4日に博多で「日最高気温の低い方から」の7月の極値更新 9日と10日に高温注意情報発表

期間の中頃までは梅雨前線の影響で曇りや雨。また、前線北側の気団の影響で気温が低く、4日に博多で「日最高気温の低い方から」の7月の極値を更新。終わりは高気圧に覆われて晴れて、9～10日は35℃を超える猛暑となる所があり高温注意情報を発表した。また、強い日射により午後は雷を伴い強い雨が降った所があった。

気温は、期間の中頃までは平年を下回ったが、期末は平年を上回った。旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、22.4～24.6℃（平年差 -2.4～-1.1℃）で平年より低く、旬降水量は87.5～131.5mm（平年比57～98%）で県内各地で平年並、旬日照時間は平年比30～92%で平年並か少なかった。

中旬：台風や湿った気流の影響で曇りや雨 低温 寡照

15日に高温注意情報発表 17日に福岡などで「日最高気温の低いほうから」の7月の極値更新

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、台風第9号、第11号及び太平洋高気圧周辺部から流れこむ湿った空気の影響で曇りや雨。13～14日にかけては、県の南部を中心に大雨の所があった。台風第11号は、16日23時頃室戸市付近に上陸、北上して17日午後日本海へ抜けた。15日は晴れて最高気温が35℃を超える猛暑の所があり、高温注意情報を発表した。17日は北よりの風が強く、日最高気温は福岡20.5℃、博多20.6℃、宗像19.9℃、八幡20.1℃となり「日最高気温の低いほうから」の7月の極値を更新した。

気温は、平年を上回る日があったが、平年を下回る日が多く、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、24.4～26.3℃（平年差 -2.0～-0.7℃）で平年より低く、旬降水量は9.0～180.5mm（平年比24～128%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比50～74%で平年より少なかった。

下旬：期間のはじめは湿った気流の影響で大雨 中頃からは太平洋高気圧に覆われて概ね晴れたが台風第12号の影響を受けた

九州北部地方は29日ごろ梅雨明け、高温注意情報発表

21～23日は太平洋高気圧周辺の湿った空気の流れ込みで雨や曇りとなり、大牟田では22～23日にかけて120mmを超える大雨となった。期間の中頃からは太平洋高気圧に覆われて概ね晴れたが、26日19時頃佐世保市付近に上陸した台風第12号の影響を受けた。

台風の通過後は太平洋高気圧に覆われ晴れて、29 日ごろ「九州北部地方（山口県を含む）は梅雨明け」（平年より 10 日、前年より 9 日遅い）した。内陸部では 35℃以上の猛暑日となる日が多く、高温注意情報を発表した。

気温は、はじめ平年を下回る日があったが、中頃からは平年を上回り、旬では概ね平年を上回った。降水量と日照時間は平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は、26.4～28.7℃（平年差 -0.6～+1.2℃）で概ね平年並、旬降水量は 16.5～145.5mm（平年比 68～202%）で平年より多い所が多く、旬日照時間は平年比 72～113%で概ね平年並だった。

(8) 8月の気象概況

上旬：太平洋高気圧に覆われて晴れ 高温 少雨 多照

7月30日から8月10日まで連続して福岡県高温注意情報発表

8日に久留米で「日最高気温の高い方から」の8月及び年間の極値更新

期間を通して太平洋高気圧に覆われて晴れの日が続いた。強い日射の影響で気温が上がリ、内陸部を中心に最高気温が35℃を超える猛暑日となる所もあり、7月30日から8月10日まで連続して福岡県高温注意情報を発表した。8月8日には久留米で日最高気温38.5℃を観測し、「日最高気温の高い方から」の8月及び年間の極値を更新した。期間の中頃からは、強い日射の影響で、山間部を中心に午後は雷を伴い強い雨が降った所があった。

旬の気温は、期間を通して県内各地で概ね平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、28.0～30.4℃（平年差 +0.9～+2.2℃）で、県内各地で高く、旬降水量は、0.0～5.0mm（平年比 0～11%）で、県内各地で概ねかなり少なく、旬日照時間は平年比 134～185%で、県内各地で概ねかなり多かった。

中旬：低気圧や前線、湿った気流の影響で曇りや雨 低温 寡照

台風第13号から変わった低気圧が12日に対馬海峡から日本海に進み、この低気圧に伴う前線が九州付近を通過した12～13日は雷を伴って強い雨が降り、所によって大雨となった。その後、15日と18日は一時的に高気圧に覆われて晴れたが、その他は前線が九州付近に停滞しやすく、曇りや雨の日が多かった。16～17日は前線上を低気圧が通過したため大雨となった所があった。

気温は期間を通して概ね平年を下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、25.2～27.3℃（平年差 -1.7～-0.6℃）で低く、旬降水量は68.5～269.0mm（平年比 119～438%）で概ね多く、旬日照時間は平年比 63～79%で県内各地で少なかった。

下旬：台風や前線の影響を受けて曇りや雨 低温 多雨 寡照

25日は台風第15号の上陸・通過に伴い暴風雨 福岡市早良区付近などで記録的短時間大雨

行橋などで「日最大風速」の年間の極値、久留米などで「日最大1時間降水量」の8月の極値更新

期間のはじめと中頃に高気圧に覆われて晴れたが、その他は台風や低気圧・前線、湿った気流の影響で曇りや雨となった。特に25日は強い台風第15号が6時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸、朝の内から昼前にかけて福岡県を縦断して県内は暴風雨となった。八幡で17.0m/s、行橋で18.2m/sの日最大風速を観測し「日最大風速」の年間の極値を更新、

添田で 68.0mm、久留米で 69.5mm の 1 時間降水量を観測し「日最大 1 時間降水量」の 8 月の極値を更新した。

気温は、期間のはじめに平年を上回る所もあったが、その他は平年を下回り、旬では大きく下回った。降水量は県内各地で平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、24.0～25.5℃（平年差 -2.2～-1.5℃）でかなり低く、旬降水量は 73.5～266.0mm（平年比 180～343%）で概ねかなり多く、旬日照時間は、平年比 49～68%で県内各地で少なかった。

(9) 9月の気象概況

上旬：秋雨前線の影響で曇りや雨 低温 寡照

7日に「日照不足に関する福岡県気象情報」を発表

高気圧に覆われて概ね晴れた日もあったが、期間を通して秋雨前線に伴う湿った気流の影響を受ける日が多く、曇りや雨の日が多かった。

気温が低めに経過し、日照も少なかったことから、7日に「日照不足に関する福岡県気象情報」を発表した。

台風第18号は、9日10時過ぎ愛知県知多半島に上陸後、日本海へ抜けて温帯低気圧に変わった。

気温は、期間を通して平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は平年を上回る所と下回る所があった。日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、22.2～24.0℃（平年差 -2.9～-1.5℃）で概ねかなり低く、旬降水量は37.5～135.0mm（平年比56～175%）で、平年並の所が多く、旬日照時間は平年比41～74%で概ねかなり少なかった。

中旬：天気は数日の周期で変化 低温

14日に「日照不足に関する福岡県気象情報」を発表

高気圧と低気圧や前線、湿った気流の影響を交互に受けて、天気は数日の周期で変化した。17日は、低気圧や前線の影響で雷を伴った雨が降り、大牟田で日降水量62.0mmを観測した。気温は期間を通して低く、かなり低い日もあった。

気温は期間を通して平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は平年を下回る所が多く、日照時間は平年を上回る所が多かった。

県内各地の旬平均気温は、20.0～22.3℃（平年差 -3.6～-1.9℃）でかなり低い所が多く、旬降水量は15.0～70.0mm（平年比30～164%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比99～120%で概ね平年並だった。

下旬：天気は短い周期で変化 高温

博多と空港北町では「9月の月平均気温の低い方から」の極値更新

期間を通して高気圧と気圧の谷や湿った気流の影響を受けて天気は短い周期で変化した。期間の初めと後半は高気圧に覆われて概ね晴れの日が多かったが、期間の中頃と期末は気圧の谷や前線の影響を受けて曇りや雨となり、23日から24日にかけては県内各地でまとまった雨が降った。

9月は気温の低い日が多く、博多で23.0℃、空港北町で22.9℃の月平均気温を観測し、「9月の月平均気温の低い方から」の極値を更新した。

気温は初めと終わりに平年を下回る日があったが、その他は平年を上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は概ね平年を上回っ

た。

県内各地の旬平均気温は、21.2～23.9℃（平年差 +0.2～+1.7℃）で県内各地で高く、旬降水量は、25.0～88.0mm（平年比 47～91%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比 94～122%で平年より多い所が多かった。

(10) 10月の気象概況

上旬：高気圧に覆われて概ね晴れたが、1日は急速に発達する低気圧が日本海を北東に進んだ影響で荒れた天気 低温 多雨

1日に行橋で「日最大風速」の10月の極値更新

期間を通して高気圧に覆われて概ね晴れたが、1日は急速に発達する低気圧が、日本海を北東に進んだ影響で荒れた天気となり、行橋で西の風 10.1m/s を観測し「日最大風速」の10月の極値を更新したほか、県内各地で大雨となり、日降水量 55.0mm～134.0mm を観測した。

気温は、はじめ平年を上回る日もあったが、その他は平年を下回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量と日照時間はともに、県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、17.4～20.0℃（平年差 -2.2～-0.9℃）で平年より低く、旬降水量は 55.0～137.0mm（平年比 172～298%）で県内各地で平年より多く、旬日照時間は平年比 110～129%で概ね平年より多かった。

中旬：期間のはじめは前線や寒気の影響を受けて一時雨、その後は高気圧に覆われて晴れ 低温 多照

11日は寒冷前線、12日は寒気の影響を受けて一時的に雨が降った。その後は帯状の高気圧に広く覆われて概ね晴れの日が続いた。14日朝は放射冷却現象の影響で、県内各地で今季一番の冷え込みとなった。

気温は、期間の前半は平年を下回り、後半は概ね平年を上回り、旬では県内各地で平年を下回った。降水量は県内各地で平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、16.3～18.8℃（平年差 -1.5～-0.2℃）で概ね低く、旬降水量は 1.5～8.5mm（平年比 6～32%）で少ない所が多く、旬日照時間は平年比 125～145%で概ね平年よりかなり多かった。

下旬：前半は高気圧に覆われて晴れ 後半は短い周期で変化 多照

福岡などで「10月の月間日照時間の多い方から」の極値更新

期間の前半は高気圧に覆われて晴れの日が続いた。後半は前線や気圧の谷と高気圧が交互に通過して天気は短い周期で変化した。27日は前線や湿った気流の影響で雨が降り、県内各地で 3.0～25.5mm の日降水量を観測し、10月1日以来のまとまった雨になった。29日と31日は寒気の流れ込みと放射冷却の影響で、県内各地で今季一番の冷え込みとなった。

10月は期間を通じて勢力の強い高気圧に覆われて晴れの日が多かったため日照時間が多く、月間日照時間は福岡(231.2時間)、宗像(232.5時間)、八幡(226.8時間)、行橋(230.3時間)、太宰府(228.1時間)、朝倉(231.9時間)、黒木(237.5時間)を記録し、「10月の月間日照時間の多い方から」の極値を更新した。

気温は、期間の中頃までは平年を上回り、終わりは平年を下回り、旬では県内各地で平

年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を上回った。

県内各地の旬平均気温は、15.0～18.0℃（平年差 ±0.0～+1.4℃）で平年並の所が多く、旬降水量は 3.0～25.5mm（平年比 18～146%）で平年並の所が多く、旬日照時間は平年比 128～139%で県内各地で概ね平年よりかなり多かった。

(11) 11月の気象概況

上旬：期間の前半は高気圧に覆われて晴れた日が多く、後半は前線や湿った気流の影響で曇りや雨 高温

7日に朝倉で、8日に前原などで「日最高気温の高い方から」の11月の極値更新

期間の前半は、はじめ気圧の谷や湿った気流の影響で雨が降ったが、その後は高気圧に覆われて晴れた。後半は前線や湿った気流の影響で曇りや雨となり、暖かく湿った気流の影響で気温が上がった7日は朝倉で26.6℃、8日は宗像で26.8℃、八幡で26.3℃、空港北町で26.0℃、行橋で26.8℃、前原で27.9℃、太宰府で26.8℃、添田で26.4℃の日最高気温を観測して「日最高気温の高い方から」の11月の極値を更新した。

気温は、期間のはじめに平年を下回ったが、その後は大きく上回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量と日照時間はともに、概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は15.2～17.5℃（平年差+0.5～+2.4℃）で平年より高く、旬降水量は12.5～40.5mm（平年比38～139%）で県内各地で平年並、旬日照時間は平年比84～101%で概ね平年並だった。

中旬：天気は短い周期で変化したが曇りや雨となる日が多かった 高温 多雨 寡照

高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は短い周期で変化したが、前線や湿った気流の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。特に17日～18日は前線を伴った低気圧の影響で、100mmを越す大雨となった所があった。

気温は、期間を通して平年を上回り、県内各地で平年を大きく上回った。降水量は県内各地で平年を大きく上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、15.3～17.6℃（平年差+3.8～+5.0℃）で平年よりかなり高く、旬降水量は61.5～149.0mm（平年比198～703%）で県内各地で平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比51～78%で県内各地で平年より少なかった。

下旬：期間の中頃に強い寒気の影響を受け気温の変動が大きかった 高温 寡照

27日に背振山で初冠雪を観測

27日に「日照不足に関する福岡県気象情報」を発表

飯塚などで「月平均気温の高い方から」、添田などで「月間日照時間の少ない方から」の極値更新

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、期間を通して気圧の谷や寒気の影響で曇りや雨の日が多く、26日夜から27日は冬型の気圧配置による強い寒気の流れ込みで今季一番の冷え込みとなった。北西の風が強く荒れた天気となって、山沿いでは雪が降り、背振山では27日に、平年より11日、前年より7日早い初冠雪を観測した。

福岡県では11月7日頃から日照時間の少ない状態が続き、12月に入ってもこの状態が続

くことが見込まれたため、27日に「日照不足に関する福岡県気象情報」を発表した。また、11月は暖かく湿った空気に覆われる日が多く、飯塚、行橋、添田、朝倉、久留米で「月平均気温の高い方から」、添田、黒木で「月間日照時間の少ない方から」の極値を更新した。

気温は、前半は平年を大きく上回り後半は下回ったが、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は概ね平年を下回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、10.8～13.1℃（平年差+0.8～+2.2℃）で平年より高く、旬降水量は2.0～43.5mm（平年比7～119%）で概ね平年並、旬日照時間は平年比40～73%で平年よりかなり少ない所が多かった。

(12) 12月の気象概況

上旬：高気圧に覆われて晴れた日もあったが寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多く気温の変動大 高温 多雨

10日に空港北町で「日最低気温の高い方から」の12月の極値更新

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、冬型気圧配置による寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。10日は東シナ海に発生した低気圧が発達しながら九州南部に接近し、12月としてはまとまった雨となった。

気温は寒暖の変動が大きく、前半は平年を下回る日が多く、後半は大きく上回り、旬では平年を上回った。降水量は県内各地で平年を大きく上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、8.9～11.7℃（平年差+1.1～+2.1℃）で平年より高く、旬降水量は43.0～74.0mm（平年比135～322%）で概ね平年よりかなり多く、旬日照時間は平年比79～96%で平年より少ない所が多かった。

中旬：天気は短い周期で変化 低気圧や気圧の谷の影響で雲が広がりやすく寒暖の変化が大きかった 高温

17日に福岡で初雪 18日に初霜、初氷を観測

高気圧と低気圧や気圧の谷の影響を交互に受けて天気は短い周期で変化したが、寒気の影響で雲が広がりやすく沿岸部では雨の日が多かった。17日は冬型の気圧配置が強まり福岡で初雪（平年より2日遅く、前年より15日遅い）を、18日は晴れて放射冷却による冷え込みで初霜（平年より6日遅く、前年より9日早い）と初氷（平年より2日遅く、前年より4日遅い）を観測した。

気温は寒暖の変動が大きかったが、中頃までは平年を上回り、終わりは概ね平年を下回り、旬では県内各地で平年を上回った。降水量は平年を上回る所が多く、日照時間は概ね平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、7.3～10.3℃（平年差+1.3～+2.0℃）で平年より高く、旬降水量は5.5～84.0mm（平年比42～191%）で平年より多い所が多く、旬日照時間は平年比69～104%で平年並か少なかった。

下旬：気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく寒暖の変動が大きかった 高温

宗像などで「月平均気温の高い方から」の極値更新

高気圧に覆われて晴れた日もあったが、気圧の谷や寒気の影響で雲が広がりやすく、県北部の沿岸部では寒気の影響で雨の日が多かった。12月の月平均気温は、宗像で9.2℃、空港北町で10.4℃、行橋で8.9℃、前原で9.7℃を記録して、「月平均気温の高い方から」の12月の極値を更新した。

気温は、中頃までは概ね平年を上回り、終わりは平年を下回り、旬では県内各地で平年

を上回った。降水量は概ね平年を上回り、日照時間は県内各地で平年を下回った。

県内各地の旬平均気温は、6.2～9.4℃（平年差+1.0～+1.7℃）で平年より高く、旬降水量は 11.0～47.0mm（平年比 74～215%）で平年より多い所が多く、旬日照時間は平年比 65～98%で平年並の所が多かった。

(13) 月別値の階級区分

福岡の月別値の階級区分

年 月	月平均気温	月降水量	月日照時間
平成 27 年 1 月	かなり高い	多い	平年並
平成 27 年 2 月	平年並	少ない	平年並
平成 27 年 3 月	高い	平年並	かなり多い
平成 27 年 4 月	高い	かなり多い	少ない
平成 27 年 5 月	かなり高い	平年並	多い
平成 27 年 6 月	低い	平年並	少ない
平成 27 年 7 月	低い	平年並	平年並
平成 27 年 8 月	低い	多い	平年並
平成 27 年 9 月	低い	平年並	平年並
平成 27 年 10 月	平年並	平年並	かなり多い
平成 27 年 11 月	かなり高い	多い	少ない
平成 27 年 12 月	かなり高い	かなり多い	少ない

階級区分について

気象要素の分布を値の大(高)、小(低)によって、「高い(多い)」、「平年並」、「低い(少ない)」の3階級を用い、平年から極端に異なった状況を表現する場合には、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」を補足的に用いています。3階級の出現率は「33.3%、33.3%、33.3%」(1:1:1)の等確率で、「かなり高い(多い)」、「かなり低い(少ない)」の出現率は10%です。